

平成 22 年 6 月 11 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19320068

研究課題名（和文）

琉球八重山方言の言語地理学的な研究

研究課題名（英文）

Linguistic Geographic Research into the Yaeyama Dialects of the Ryukyus

研究代表者

高橋 俊三 (TAKAHASHI TOSHIZO)

沖縄国際大学・総合文化学部・教授

研究者番号：40088779

研究成果の概要（和文）：

臨地調査によって得られた資料を基に八重山方言の言語地図を作成して分析した結果、与那国方言が他の八重山諸方言と対立する方言であること、西表島西部方言が、八重山諸方言の下位方言グループとして位置づけられること、石垣島の諸方言が一つの下位方言としてまとめられること、竹富島、小浜島、新城島、鳩間島、黒島、波照間島の各方言が個性的な特徴を有していて、一つのグループにまとめることができないことなどが分かった。

研究成果の概要（英文）：

Based on linguistic corpora obtained through fieldwork, linguistic geographic maps of the Yaeyama dialects were generated. From analysis of these data, the following points were clarified: The Yonaguni dialect stands in opposition to the other Yaeyama dialects; the western Iriomote dialects can be located as a subordinate dialect group of the Yaeyama dialects; the Ishigaki dialects can be concluded to be one subordinate dialect group of the Yaeyama dialects; the dialects of Taketomi, Kohama, Aragusuku, Hatoma, Kuroshima, and Hateruma have individual characteristics which do not permit them to be grouped into one dialect group.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
平成 20 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
平成 21 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	5,300,000	1,590,000	6,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：国語学、方言学、琉球方言、八重山方言、言語地理学

## 1. 研究開始当初の背景

八重山方言研究は、与那国島、新城島、小浜島、鳩間島、石垣島四箇など、比較的良好に研究された方言がある一方で、石垣島北部地域や西表島の方言などについてはまとまった調査報告がなく、研究蓄積の質と量に大きな格差があった。また、統一した観点から八重山地域全部の集落の方言を対象にした調査研究が行なわれておらず、八重山諸方言の全容解明、八重山諸方言の形成過程や下位区分などの解明が遅れていた。

## 2. 研究の目的

八重山諸島（石垣島、西表島、竹富島、黒島、小浜島、鳩間島、新城上地島、新城下地島、波照間島、与那国島）の 30 集落の言語地理学的な研究を行なうために作成された調査票を使用して臨地調査を行ない、得られた資料をデータベース化し、調査語彙項目一覧として公開する。

作成されたデータベースをもとに全 350 項目について八重山諸方言の言語地図を作成する。八重山方言を特徴づける項目については詳しい解説を付し、八重山諸方言の全容、八重山諸方言の形成過程や下位区分、地域ごとの特性などを明らかにする。

## 3. 研究の方法

八重山諸方言の下位区分とその形成過程、地域ごとの特性を解明するための方法として本研究では言語地理学的な調査、研究を行なった。与那国島を含む八重山諸島全域の臨地調査を行ない、国際音声記号によって方言を記録した。得られた方言資料をデータベース化して整理し、八重山方言の言語地図を作成して、音韻論的な特徴、文法的な特徴、単語の語形の特徴から 1 枚 1 枚の言語地図を分析した。

## 4. 研究成果

研究期間内の 3 年間に現在臨地調査が可能な八重山地域の 30 地点の臨地調査を実施した。調査した 30 地点は、八重山諸島のほぼ全集落に相当する。得られた資料をもとに 390 枚の言語地図を試作した。作成された言語地図の分析を通して、分かったことは以下の点である。

(1) 与那国島方言は、他の八重山諸方言と共通の特徴を有するものの、作成されたほぼ全ての言語地図を通して、音韻的な側面からみても単語の語形の面からみても他の八重

山諸方言とは異なる語形を示すことが多く、他の八重山諸方言と対立するほどの下位方言として取り出すことが可能である。

(2) 西表島西部地区の干立、祖納、舟浮、網取の 4 集落は、同じ語形、類似の語形が現われ、共通の言語的な特徴をもった下位方言グループとして八重山諸方言のなかに位置づけることができる。

(3) 石垣島の諸方言（波照間島からの移住者集落の白保を除く）は、全体として共通の特徴を見せ、ゆるやかなひとまとまりのグループをなして、八重山諸方言の下位方言として位置づけることができる。

(4) 石垣島と西表島の二つの大きな島間の石西礁湖海域に位置する竹富島、小浜島、新城（上地、下地）島、鳩間島、黒島の諸方言は、それぞれが個性的な特徴を有していて、一つのグループにまとめることができない。

(5) 波照間島方言は石垣島からも西表島からも離れていて、石西礁湖の島々の方言と同様に個性的な特徴を有する。石垣島白保は 1771 年に波照間島からの移住者集落であるが、音韻的特徴、語形の多くで波照間島方言と同じ特徴を示し、分岐後の変異がきわめて小さいことが分かった。「一つ」の語形や音韻的な特徴で与那国島方言と共通の現象がみられた。

(6) 臨地調査を計画した地点のうち、石垣島平久保は、話者を確保できず調査することができなかった。今後も可能な限り話者を探して平久保方言を調査し記録に努めたい。なお、幸運にも、平久保の調査では廃村となって消えた安良集落の出身者で、最後の方言話者から収集したデータを言語地図に反映させられた。

(7) 言語地図作成には一般公開も考慮して市販ソフト FileMakaerPro を利用したが、今後琉球列島全域の言語地図作成には改良を加えるか、新規の言語地図作成用ソフトを開発しなければならないこと、データ公開には作成した外字で表示した特殊記号をどう解消するかなどの課題が残った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 狩俣繁久、南琉球方言の同化と異化、日本東洋文化論集、査読無、第 16 号、2010、1-38  
http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/123456789/17067
- ② 西岡敏、波照間方言のことわざ集—『波照間島の歴史・伝説考—仲本信幸遺稿集—』をもとにしたの音声記号化の試み—、沖縄国際大学日本語日本文学研究、査読有、第 25 号、2010、1-26、  
http://ir.okiu.ac.jp/handle/2308/294
- ③ 狩俣繁久、琉球方言・言語地理学研究小史—「国頭方言の音韻」から『名護市史本編言語』まで、琉球アジア社会文化研究、査読有、12 号、2009、55-68
- ④ 狩俣繁久、波照間方言と与那国方言の形容詞語尾を言語接触からみる、南島文化、査読有、31 号、2009、1-10
- ⑤ 狩俣繁久、人の移動・言語接触と琉球語、人の移動と 21 世紀グローバル社会—移民・言語・文学、査読無、2009、28-32
- ⑥ 西岡敏、与那国方言の動詞継続相のアクセント対立、八重山与那国島調査報告書(2)、査読無、35 号、2008、95-105
- ⑦ 狩俣繁久、琉球方言音韻研究の現況—音韻変化の体系の研究をめざして、国文学解釈と鑑賞、査読無、72 巻 7 号、2007、28-38
- ⑧ 狩俣繁久、これまでの琉球方言研究、これからの琉球語研究、沖縄言語研究センター資料、査読無、No.161、2007、1-12

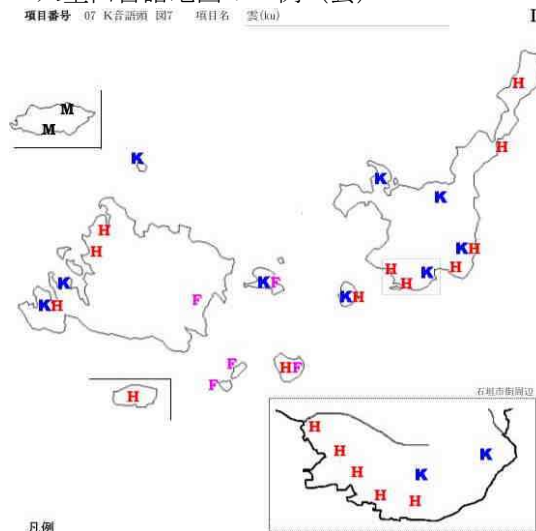
[学会発表] (計 14 件)

- ① 池間恵理子、「虹」と「くびる」の言語地図—語彙的な分析—、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ② 伊波枝里子、八重山諸方言の弱変化に属するタイプの動詞の短語尾形と長語尾形、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ③ 大森一郎、石西礁湖の島々の方言、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ④ 知念桃子、「柄」の語彙分布、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑤ 知念桃子、語中 n 音挿入と「鏡」のリズム構造の変化、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日

(土)

- ⑥ 仲原穰、有声子音の無声子音化、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑦ 仲間恵子、琉球八重山諸島の言語区画—西表島西部を中心に—、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑧ 西岡敏、琉球八重山方言の K 音・鼻母音・喉頭化音、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑨ 又吉里美、八重山方言動詞の過去形、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑩ 宮平涼子、言語地図からみる八重山方言—言語地理学的な調査研究の報告—、沖縄言語研究センター2009 年度 12 月例会、2009 年 12 月 12 日 (土)
- ⑪ 狩俣繁久、南琉球方言における同化と異化、沖縄言語研究センター2009 年度 10 月例会、2009 年 10 月 17 日 (土)
- ⑫ 狩俣繁久、東筋・仲本方言と波照間・白保方言—近似する方言の比較から見えてくること—、沖縄言語研究センター2009 年度 (第 32 回) 研究発表会、2009 年 7 月 5 日 (日)
- ⑬ 西岡敏、竹富方言のアクセントと音韻解釈、沖縄言語研究センター2009 年度 5 月例会、2009 年 5 月 16 日 (土)
- ⑭ 狩俣繁久、竹富町黒島東筋方言の音韻体系と音韻変化 (おぼえがき)、沖縄言語研究センター2009 年度 4 月例会、2009 年 4 月 18 日 (土)

八重山言語地図の一例 (雲)



〔その他〕

本件に関わる冊子体の研究成果報告書を作成した。冊子（A 4版、全286頁）の内容は以下の通りである。

高橋俊三、八重山方言の言語地理学的研究（緒言）、3-9  
仲間恵子、データ入力と整備、編集と印刷について、11-12  
仲間恵子、地図について、13-14  
又吉里美、八重山方言言語地理学小史、15-20  
仲間恵子、琉球八重山諸島の言語区画—西表西部方言を中心に—、23-42  
大森一郎、石西礁湖の島々の方言、43-61  
西岡敏、琉球八重山方言におけるK音の変化、63-90  
西岡敏、琉球八重山方言の鼻母音、91-94  
西岡敏、琉球八重山方言の喉頭化音、95-103  
仲原穰、有声子音の無声子音化、105-120  
宮平涼子、語中の無声子音／t／の有声化、121-136  
宮平涼子、語頭の／b／と／w／の分布について、137-145  
狩俣繁久、歯茎音と i、u の結合の分布をみる、147-174  
狩俣繁久、\*i の変化と音声形式から与那国・八重山方言の下位区分を考える、175-190  
知念桃子、語中 n 音挿入、191-196  
又吉里美、八重山方言動詞の過去形、197-216  
伊波枝里子、動詞の短語尾形と長語尾形、217-227  
池間恵理子、「虹」の言語地図、229-234  
池間恵理子、「くびる」の言語地図、235-242  
狩俣繁久、「ひとつ」の言語地図、243-246  
狩俣繁久、「豚」の母音融合の地図、247-252  
狩俣繁久、八重山黒島東筋方言と黒島仲本方言、255-270  
西岡敏、竹富方言の音韻解釈—対立・代わり語形・アクセントの側面から—、271-279  
仲間恵子、調査に関する資料、281-284

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 俊三 (TAKAGASHI TOSHIZO)  
沖縄国際大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：400887794

### (2) 研究分担者

狩俣 繁久 (KARIMATA SHIGEHISA)  
琉球大学・法文学部・教授  
研究者番号：50224712  
西岡 敏 (NISHIOKA SATOSHI)  
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授  
研究者番号：30389618

又吉 里美 (MATAYOSHI SATOMI)

志學館大学・人間関係学部・講師

研究者番号：60513364

(H19：研究協力者、H20より研究分担者)

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

仲原 穰 (NAKAHARA JO)

琉球大学・法文学部・非常勤講師

研究者番号：60536689

仲間 恵子 (NAKAMA KEIKO)

琉球大学・法文学部・非常勤講師

研究者番号：00412859

大森 一郎 (OMORI ICHIRO)

沖縄県立那覇西高等学校・教諭

宮平 涼子 (MIYAHIRA RYOKO)

沖縄県立糸満高等学校・教諭

池間 恵理子 (IKEMA ERIKO)

琉球大学大学院・人文社会科学研究科修了

伊波 枝里子 (IHA ERIKO)

琉球大学大学院・人文社会科学研究科在籍

知念 桃子 (CHINEN MOMOKO)

琉球大学大学院・人文社会科学研究科在籍